

家計調査報告（貯蓄・負債編）

- 平成29年（2017年）平均結果 -
（二人以上の世帯）

1 1世帯当たり貯蓄現在高は1812万円で、前年に比べ0.4%減少し、5年ぶりの減少。貯蓄保有世帯の中央値は1074万円。負債現在高は517万円で、前年に比べ2.0%の増加。負債保有世帯の中央値は1080万円

二人以上の世帯における2017年平均の1世帯当たり貯蓄現在高（平均値）は1812万円で、前年に比べ8万円、0.4%の減少となり、5年ぶりの減少となっている。このうち勤労者世帯では1327万円で、前年に比べ28万円、2.2%の増加となっている。また、二人以上の世帯の貯蓄保有世帯の中央値は1074万円となっている。

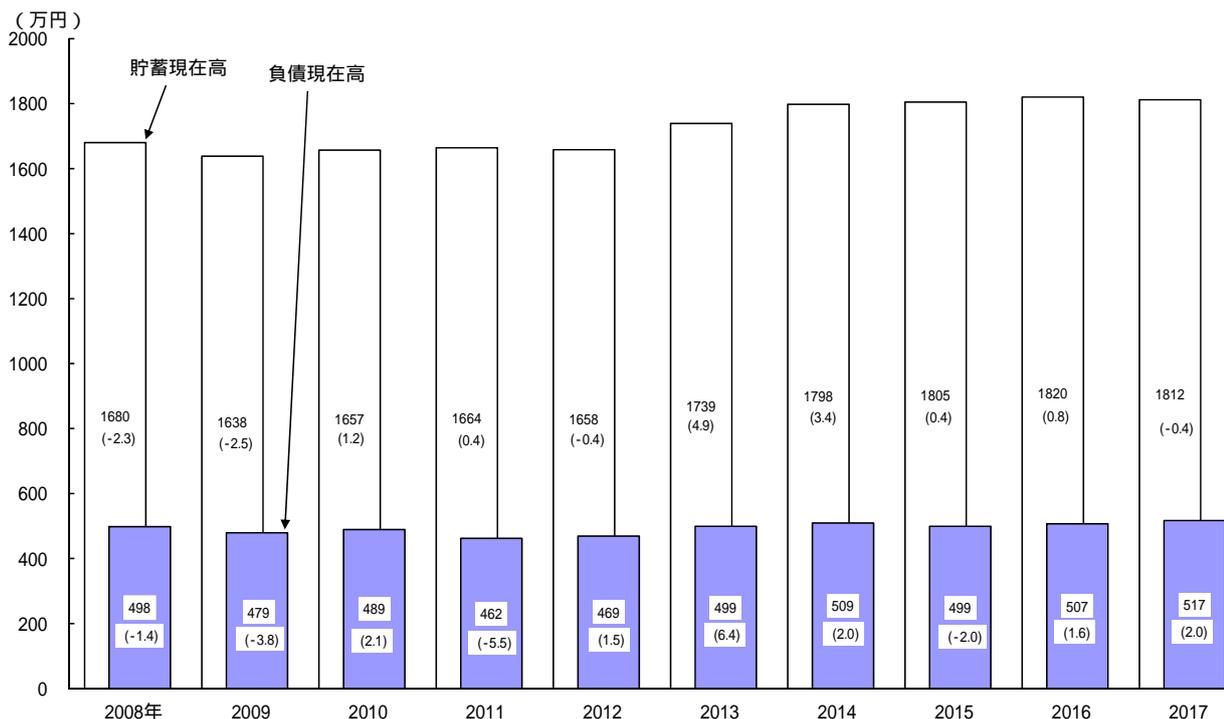
（「本文」4，5ページ）

二人以上の世帯における2017年平均の1世帯当たり負債現在高（平均値）は517万円で、前年に比べ10万円、2.0%の増加となっている。このうち勤労者世帯では794万円で、前年に比べ13万円、1.7%の増加となっている。また、二人以上の世帯の負債保有世帯の中央値は1080万円となっている。

（「本文」9，10，11ページ）

図1 貯蓄・負債現在高の推移

（二人以上の世帯）



注) () 内は、対前年増減率 (%)

2 約3分の2の世帯が貯蓄現在高の平均値（1812万円）を下回る。

貯蓄現在高の内訳は、通貨性預貯金が9年連続の増加、定期性預貯金が3年連続の減少

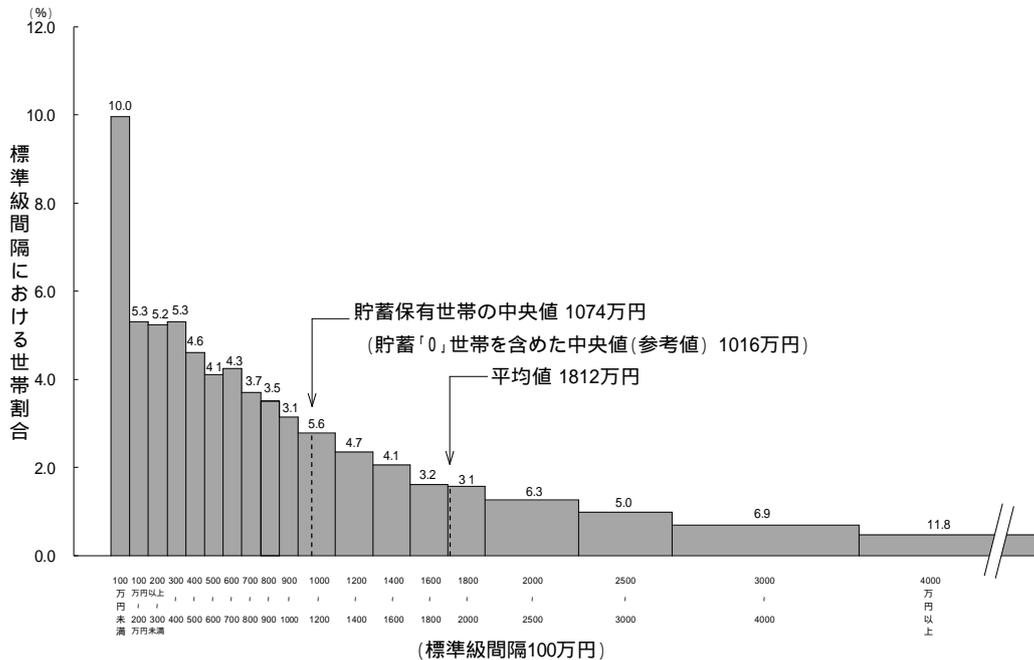
二人以上の世帯について貯蓄現在高階級別の世帯分布をみると、貯蓄現在高の平均値（1812万円）を下回る世帯が約3分の2（67.0%）を占め、貯蓄現在高の低い階級に偏った分布となっている。

（「本文」6ページ）

貯蓄の種類別貯蓄現在高の推移をみると、通貨性預貯金は増加となっている。通貨性預貯金は442万円で、前年に比べ30万円、7.3%の増加となり、9年連続の増加となっている。一方、定期性預貯金は712万円で、前年に比べ15万円、2.1%の減少となり、3年連続の減少となっている。

（「本文」7ページ）

図2 貯蓄現在高階級別世帯分布（二人以上の世帯） - 2017年 -



注) 貯蓄保有世帯の中央値とは、貯蓄現在高が「0」の世帯を除いた世帯を貯蓄現在高の低い方から順番に並べたときに、ちょうど中央に位置する世帯の貯蓄現在高をいう。

図3 貯蓄の種類別貯蓄現在高及び構成比の推移（二人以上の世帯）



注1) ()内は、貯蓄現在高に占める割合

注2) 「通貨性預貯金」、「定期性預貯金」などの内容については、本文36ページ「用語の解説」参照

3 負債保有世帯の割合は約4割。 住宅・土地のための負債が負債現在高の約9割を占める

二人以上の世帯に占める負債保有世帯の割合は約4割(37.5%)となっている。

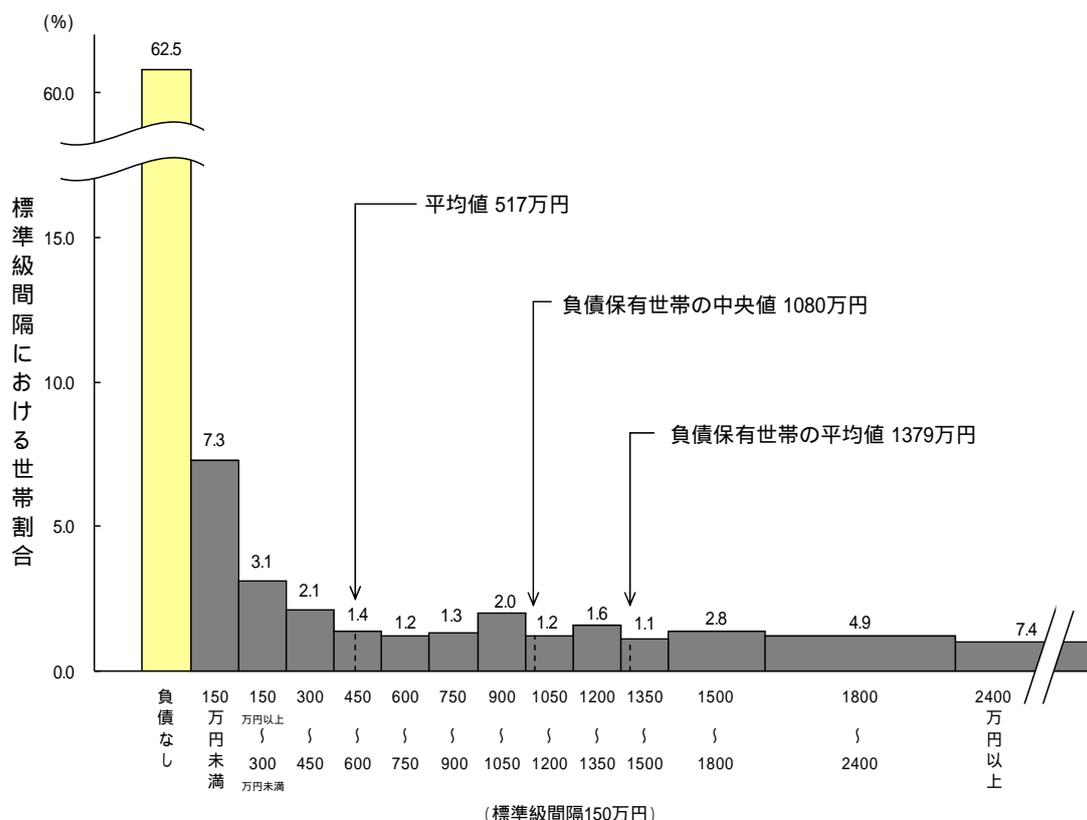
負債保有世帯では、負債現在高の平均値(1379万円)を下回る世帯が約6割(57.2%)を占めている。

(「本文」9,10,11ページ)

負債の種類別負債現在高をみると、負債現在高の約9割を占める住宅・土地のための負債は463万円で、前年に比べ11万円、2.4%の増加となっている。

(「本文」12ページ)

図4 負債現在高階級別世帯分布(二人以上の世帯) - 2017年 -



注) 負債保有世帯の中央値とは、負債現在高が「0」の世帯を除いた世帯を負債現在高の低い方から順番に並べたときに、ちょうど中央に位置する世帯の負債現在高をいう。

表 負債の種類別負債現在高

項目	二人以上の世帯				
	2016年	2017年			
	金額 (万円)	金額 (万円)	構成比 (%)	対前年 増減率 (%)	負債保有 世帯割合 (%)
負債現在高	507	517	100.0	2.0	37.5
住宅・土地のための負債	452	463	89.6	2.4	27.4
住宅・土地以外の負債	40	37	7.2	-7.5	7.9
月賦・年賦	15	17	3.3	13.3	13.8

**4 40歳以上の各年齢階級では貯蓄超過で、70歳以上の世帯の純貯蓄額は2264万円と最も多い。一方、40歳未満の世帯では負債超過。
40歳未満の世帯の貯蓄現在高は前年に比べ4.9%の増加、負債現在高は2.3%の増加**

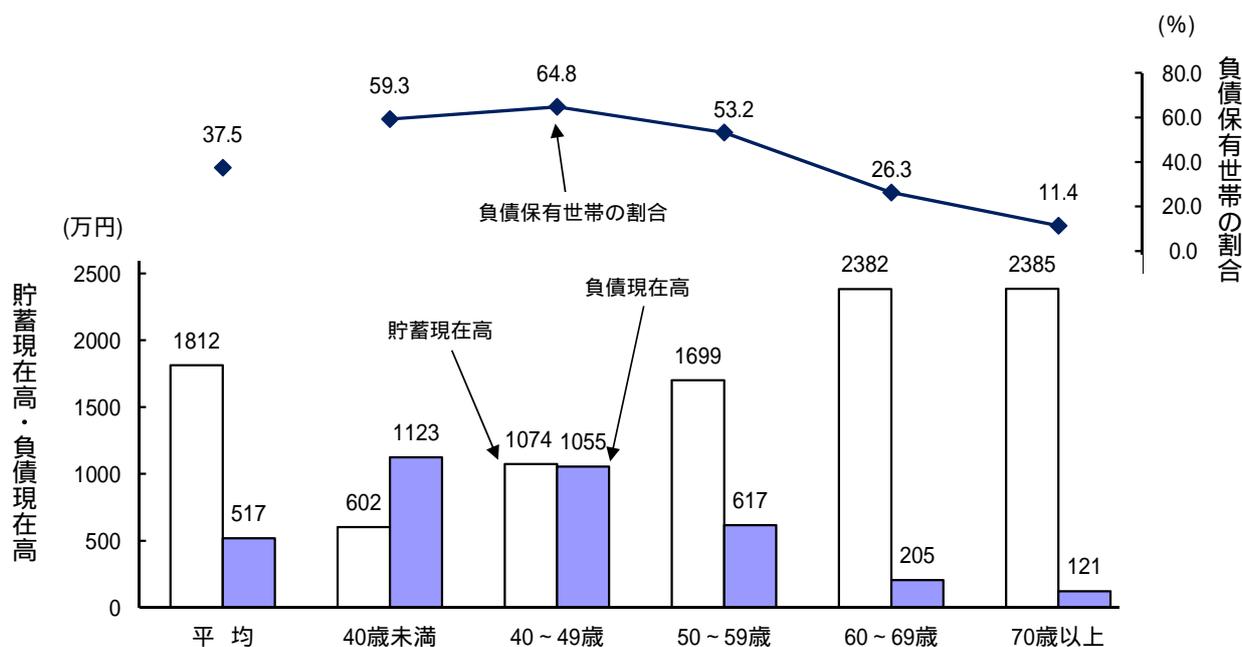
純貯蓄額（貯蓄現在高 - 負債現在高）をみると、40歳以上の各年齢階級では貯蓄現在高が負債現在高を上回っており、70歳以上の世帯の純貯蓄額は2264万円と最も多くなっている。一方、40歳未満の世帯では負債現在高が貯蓄現在高を上回っており、負債超過となっている。

（「本文」13, 14, 15ページ）

二人以上の世帯のうち40歳未満の世帯の貯蓄現在高は602万円で、前年に比べ28万円、4.9%の増加となっている。一方、負債現在高は1123万円で、前年に比べ25万円、2.3%の増加となり、負債現在高の約9割を占める住宅・土地のための負債は1057万円で、前年に比べ16万円、1.5%の増加となっている。

（「本文」13, 14, 15ページ）

図5 世帯主の年齢階級別貯蓄・負債現在高、負債保有世帯の割合（二人以上の世帯） - 2017年 -



5 高齢者世帯の1世帯当たり貯蓄現在高は2384万円。

高齢無職世帯の貯蓄現在高は2348万円で、前年に比べ0.6%の減少。貯蓄現在高の内訳は、有価証券が380万円で、前年に比べ6.2%の減少

二人以上の世帯のうち高齢者世帯（世帯主が60歳以上の世帯）の1世帯当たり貯蓄現在高は2384万円で、貯蓄現在高が2500万円以上の世帯が34.1%を占める。

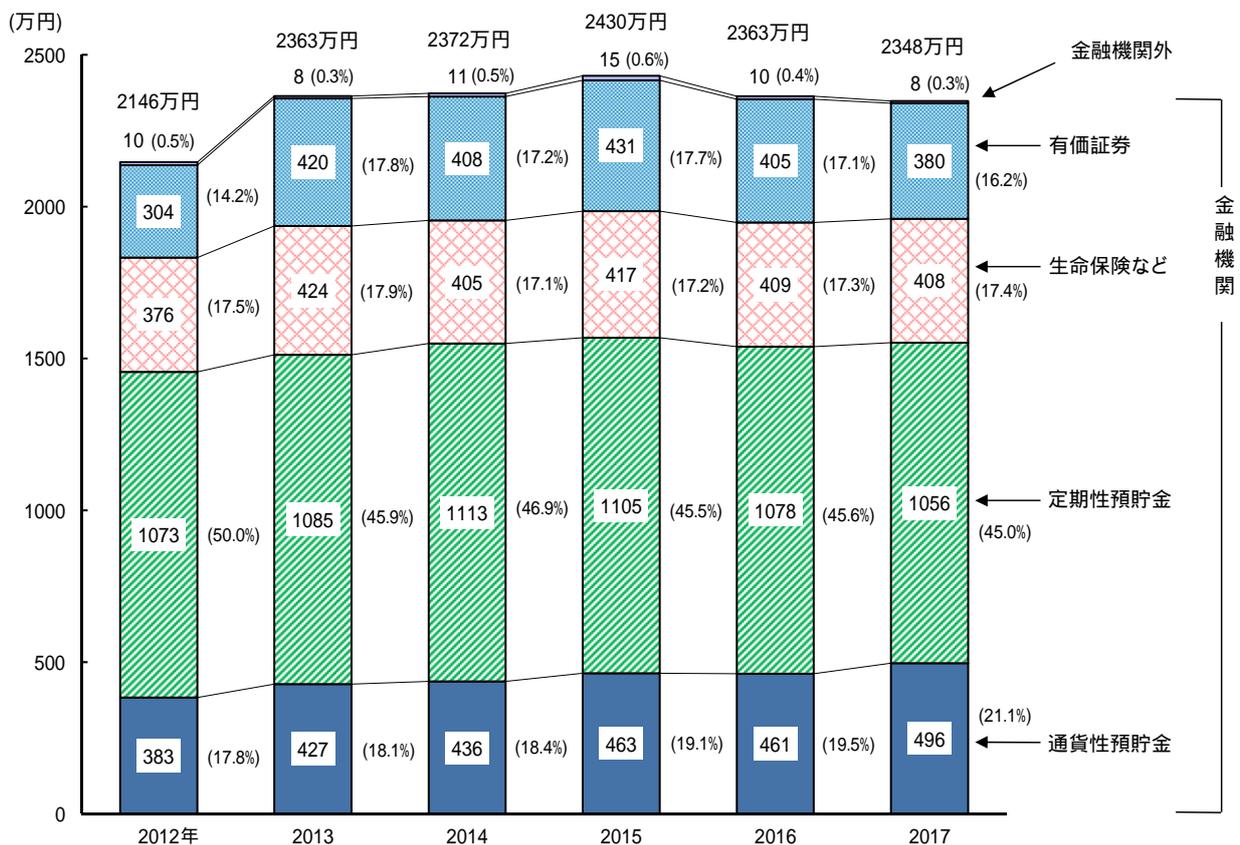
（「本文」28ページ）

二人以上の世帯のうち高齢無職世帯（世帯主が60歳以上で無職の世帯）の1世帯当たり貯蓄現在高は2348万円で、前年に比べ15万円、0.6%の減少となっている。

貯蓄の種類別にみると、有価証券は380万円で、前年に比べ25万円、6.2%の減少、定期性預貯金は1056万円で、前年に比べ22万円、2.0%の減少などとなっている。

（「本文」29、30ページ）

図6 高齢無職世帯の貯蓄の種類別貯蓄現在高の推移（二人以上の世帯）



注1) ()内は、貯蓄現在高に占める割合

注2) 「通貨性預貯金」、「定期性預貯金」などの内容については、本文36ページ「用語の解説」参照